

事務事業名		消防体制強化整備事業		会計		一般会計		実施区分			
H28担当課等名		危機管理室		H28係等名		消防団係		H27係等名		消防団係	
基本計画上の位置づけ		政策 4		暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり		施策 41		災害対策の推進		開始 終了	
目的	対象(誰・何を)	①市民の生命財産		対象指標	指標名及び単位		27年度数値				
	意図(どういう状態にするか)	生命・財産を守る			①更新を必要とする消防車両台数		5				
	向上させたい上位施策の成果指標	市民が災害に備えている割合(%)			②新設計画貯水トン数		160				
目標	種別	指標名及び単位		27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)			
	成果指標	①車両の更新 年度更新台数÷計画台数(%)		100	100	100	-				
	成果指標	②貯水の増設 年間トン数÷計画トン数(%)		100	100	0	-				
定性目標											
事業概要	<p>平成23年度から平成27年までの第10次消防力(消防団)整備計画(以下10次防)に基づき消防力の維持増強を図る。東日本大震災を契機に消防団員に求められる活動が救助等にも広がり、対応資機材の整備及び地区要望が多く出されている耐震性防火貯水槽の設置に柔軟に対応するため当初計画を平成24年度に一部変更し、平成25年度から更なる消防施設の強化を図っている。</p> <p>・飯田市消防団は平成6年度から独自の「救急繰法」に取り組み、毎年消防技術大会において競い合うことにより技術向上を図っている。平成22年度からAEDをとり入れ発展させ、長野県消防技術大会において訓練発表を行った経過がある。第10次消防力(消防団)整備計画において、消防団救急救護の充実が掲げられ日常的な災害対応における活動はもとより大規模災害における救急救護の充実も期待されている。平成25年度より、消防団員の中から応急手当普及員の資格を取得し今後はさらに、応急手当指導員を育成することにより消防体制強化が継続的に図られる。</p> <p>・平成6年度から開始した女性消防団員のための救急操法も、男女共同参画が進捗し男女混合で行う機会も増えてきた。</p>										
事業内容				名称				活動指標			
27年度事業内容	1 消防自動車等の整備 (1) 消防ポンプ自動車(橋南) (2) 小型動力付きポンプ積載車(下虎岩班、程野班、上町班) (3) 小型動力ポンプ付搬送車(野池班)			1 更新する消防自動車 (1) CD-I (2) 普通積載 2台 多機能積載 1台 (3) 搬送車輛(軽自動車)				1 5台 (1) 1台 (2) 3台 (3) 1台			
	2 耐震性貯水槽の整備 40t(橋北地区、鼎地区、山本地区、川路地区)			2 耐震性貯水槽 40t				2 (1) 4基			
	3 救急救助用品 コミュニティ助成事業(救助用品・救急訓練用品)			3 救急救助用品 (1)救急訓練用ダミー人形 (2)AEDトレーナー (3)ケブラー手袋 (4)小電力トランシーバー				3 計上品目数 (1) 2体 (2) 1台 (3) 50双 (4) 8台			
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足					
事業費計(千円)①		75,466	79,011	75,681	29,050	緊急防災・減災事業債 72,800千円 コミュニティ助成 1,000千円					
国庫支出金		10,531	10,772								
県支出金											
起債		60,100	63,700	72,800	27,700						
その他		1,000	1,000	1,000	1,000						
一般財源		3,835	3,539	1,881	350						
人件費計(千円)②		2,146		2,146							
正規職員所要時間		600		600							
臨時職員所要時間											
総事業費①+②		77,612	79,011	77,827	29,050						
事業内容・目標達成状況の振り返り	消防自動車等の整備は全て完了。耐震性貯水槽4基設置。コミュニティ助成により救急搬送担架及び救助資機材(エンジンカッター)を配備、また、安全装備品としてケブラー手袋を貸与し団員の安全性を高めた。										
改革改善の考え方	①問題点	消防団を中核とした地域防災力の向上を図るために次期消防力整備計画において大幅な変更が必要である。									
	②改革提案	救助資器材等を積載した消防車両(多機能積載車)を導入し大規模災害に備えるとともに、安全装備品の充実や消防団員が扱いやすい消防機材などを研究しながら、一方で財政状況を踏まえ消防力の維持を図っていききたい。									